

特定非営利活動法人 北海道総合地質学研究センター 2020 年通常総会

総会次第

開催日時：2020/05/31, 13:00–15:00

開催場所：北海道江別市野幌町 58 番地の 7 宮下事務所

開会 理事長挨拶

議長ならびに議事録署名人の選出

議事

第 1 号議案：2019 年度事業報告および決算

第 2 号議案：2020 年度事業計画および予算

第 3 号議案：2020 年度役員選任

報告

1. 会員動向

閉会

実出席予定：前田仁一郎、宮下純夫、岡村 聡、嵯峨山 積、関根達夫、高波鐵夫 <6 名>

- 特定非営利活動法人北海道総合地質学研究センター定款における事業年度の開始・終了日時の変更に伴う移行措置として、2019 年度は 2019 年 10 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日までである。なお 2020 年度は 2020 年 4 月 1 日から 2021 年 3 月 31 日までである。
 - 総会開催日における会員数は以下の通りである。正会員 19、一般会員 8、院生・学生会員 1、賛助会員 1。全会員数 29 である。
 - 定款第 26 条により、総会開会の定足数（正会員 19 名の 1/2 以上）は 10 名である。
 - 定款第 27 条により、総会の議決は出席正会員の過半数である。
 - 定款第 28 条により、あらかじめ通知された事項について書面もしくは電子メールをもって表決または他の正会員を代理人として表決を委任することができ、そのようにした正会員は総会に出席したものとみなされる。
 - 2019 年度役員等一覧（2020 年 3 月 31 日 時点）
理事長：前田仁一郎。副理事長：嵯峨山 積。専務理事：宮下純夫、理事：石崎俊一、川村信人、君波和雄、前田仁一郎、松田義章、宮下純夫、中川 充、岡 孝雄、岡村 聡、嵯峨山 積、関根達夫、高波鐵夫、柳下文夫、山岸宏光。監事：在田一則、加藤孝幸。幹事（内規に基づき、理事長の指名により、正・副理事長とともに幹事会を構成）：宮下純夫、岡村 聡、関根達夫、高波鐵夫、柳下文夫。総合地質編集委員会：宮下純夫（暫定委員長）、君波和雄、松田義章、岡 孝雄（暫定副委員長）、岡村 聡、柳下文夫。
 - 本総会は新型コロナウイルス蔓延の事態を考慮し、正会員の中から最小限の実出席者を理事長が指名して開催される。実出席者以外の正会員は電子メールあるいは書面によって議決権行使を行うか、あるいは実出席者への委任によって総会に参加することが要請される（定款第 28 条 2 項）。
-

議 事

第 1 号議案：2019 年度事業報告および決算

1-A：2019 年度事業報告

2019 年度は定款の改正に伴う事業年度変更の移行期として 2019 年 10 月 1 日 から 2020 年 3 月 31 日までの 6 ヶ月であり、定常的な事業の継続が主なものであった。また新型コロナウイルス感染拡大による国および自治体の非常事態措置に伴い、2020 年 2 月中旬以降の会議・行事はすべて中止することとなり、当初、4 月 26 日に設定されていた総会も大幅な延期となり、また、実参加者数を最低限に抑えるという異例の事態となった。

1. 学術雑誌「総合地質」の刊行事業

3 巻 1 号 (前年度 2019/9/20 発行, オンライン版: ISSN 2433-7161, プリント版: ISSN 2435-2187) に加え, オンライン版として発行済みの 1 巻 1 号 (2017/12/15 発行), 2 巻 1 号 (2018/10/25 発行) のプリント版 (各 20 冊) を印刷し, 国会図書館, 産総研, 道地質研, 道立図書館, 北海道博物館に納本・寄贈した。また残部については 1 部 1,500 円で希望者に頒布している。

2. 研究セミナー・論文輪読会の開催事業

研究セミナー (第 13 回, 2019/10/20, 講演: 高波鐵夫; 第 14 回, 2020/01/24, 講演: 前田仁一郎, 山岸宏光, 関根達夫, 嵯峨山 積) を開催した。出席者合計 26 名 (会員以外 2 名を含む)。当初, 通常総会に合わせて第 15 回 (発表予定: 山岸宏光, 石崎俊一, 宮坂省吾, 嵯峨山 積) を開催する予定であったが, 新型コロナウイルス感染蔓延の状況を考慮して中止した。同様に 第 2 回論文輪読会 (2020/2/29, 発表予定: 前田仁一郎) も中止した。

3. 市民向け公開講座の開催事業

以下の公開講座を開催した。第 6 回公開講座 (2019/10/12, 10/27): 宮坂省吾, 豊平川の洪水を考える (その 1 洪水の歴史, その 2 最近百年間の洪水痕跡を訪ねる); 第 7 回公開講座 (2019/11/2): 関根達夫, 昭和 56 年洪水とハザードマップの活用; 第 8 回公開講座 (2019/12/7): 宮下純夫, 変動する地球: 気候変動ー地質学的視点から気候変動・地球温暖化を考えるー。参加者総数 130 名。参加者アンケート (資料 3) は概ね高評価であった。

前年度の第 4 回と第 5 回とともに第 6 回, 第 7 回, 第 8 回公開講座は札幌市市民まちづくり活動促進基金 (さぽーととほっと助成金) 交付事業 (札幌市とその周辺の地質に関する市民向け公開講座の実施事業) を構成し, 168,000 円の助成金の交付 (交付期日 2020/4/17) を得た。この助成金収入をもとに短距離交通の全額と役務の一部有償化を行った。一部とはいえ, 役務の有償化の実現は当法人にとって画期的なことである。

4. アウトリーチ事業

野外科学株式会社から社内講習会 (2019/10/18) の一環として行われる講演の講師依頼があり, 会員 1 名を派遣した。なお, 事前に正副理事長が野外科学株式会社を訪問し, 「営業」活動を行ったことの直接的反映である。

5. 管理業務: オフィス維持

札幌市市民活動サポートセンター事務ブースの利用を継続した。

6. 管理業務: 2018 年度年報の作成

2019 年度が 6 ヶ月間と短くなるので, 2019 年度終了後に合わせて発行することにした。

1-B: 2019 年度決算

特定非営利活動法人北海道総合地質学研究センター2019 年度決算案と事業毎の収支報告を別紙に示す。2019 年度は定款の改正に伴う事業年度変更の移行期として 2019 年 10 月 1 日 から 2020 年 3 月 31 日までの 6 ヶ月であること, また当法人としては初めて外部からの助成金を獲得した年度でもあった (但し, 後述の通り, 実際の入金は 2020 年度となった)。

前年度からの繰越金は 466,885 円で、2019 年度は 216,897 円の赤字となり、合わせて次年度繰越金は 249,988 円である。大幅な赤字の原因は、札幌市さぽーとほっと助成金 168,000 円の支払いが 2020 年 4 月 17 日となり、2019 年度の会計期間に該当しなかったためである。以上を考慮すると、2019 年度の実質的な赤字額は約 50,000 円である。また従来無償役務であった公開講座役務の一部を有償化したことも関連している。

別紙：2019 年度決算（案）、貸借対照表・財産目録、事業毎決算（総合地質刊行事業決算、アウトリーチ事業決算、公開講座事業）、第 6 回～第 8 回公開講座決算詳細（参考のため、第 4 回・第 5 回決算も添付）、寄付・無償役務等提供者一覧

1-C：2018 年度監査報告

2020 年 4 月 12 日に監事 在田一則と加藤孝幸により監査が行われ、正・副理事長が同席した。監査報告を別紙に示す。

別紙：監事監査報告

第 2 号議案：2020 年度事業計画および予算

2-A：2020 年度事業計画

2020 年度は実質的に定款の改正後の初年度となる。実施を計画する事業等は以下の通りであるが、新型コロナウイルスの蔓延のため、行事の多くが中止になる見込みである。

1. 学術雑誌「総合地質」の出版事業

第 4 巻第 1 号（オンライン版とプリント版）を作成し、国会図書館、産総研、道地質研、道立図書館、北海道博物館に納本・寄贈する。残部について希望者に実費で頒布する。

2. 研究セミナー・論文輪読会の開催事業

新型コロナウイルス蔓延の事態の中、可能な限り例年と同様の企画を実施する。

3. 市民向け公開講座の開催事業

公開講座第 9 回（2020/7/18, 7/25: 前田仁一郎、どうして山ができるのか）、第 10 回（2020/8/29: 宮下純夫、変動する地球：日本海東縁の地震帯 - 迫り来る地震への備え -）、第 11 回（2020/10/31: 岡 孝雄、2018 年胆振東部地震の地盤変動の全容）、第 12 回（2020/11/28: 松田義章、地質学的に見た手稲山の形成史）の開催と、札幌市の助成金の申請を行うことにしていたが、新型コロナウイルス蔓延の事態を受け、急遽、5/22 に全講座の中止を決断した。

4. 一般会員向け事業の拡充

一般会員の在籍数は 2016 年 3 月の設立当初の 1 名から、現在の 8 名へと大幅に増加している。今後の事業においては一般会員が参加しやすい行事の企画、例えば研究セミナーや論文輪読会の有効利用や野外巡検の実施などを検討する。

5. 自治体等へのアウトリーチ活動の実施

6. 2018・2019 年度年報の作成

7. 全国規模のシニア主体の組織体構築の模索

2020 年 9 月 9 日から名古屋大学において開催される日本地質学会学術大会の期間中に小集会を開催する予定

8. 社会的認知度向上のための活動の実施

9. ホームページコンテンツの充実

ホームページの維持経費の有償化を検討する。

10. HRCG の今後のあり方の検討

2022 年 4 月以降のリアルオフィスのあり方の検討, 運営体制・部門の再検討, 役員報酬・役務有償化などの検討を行う。

3-B：2020 年度予算案

上記 2020 年度事業計画に合わせ, 別紙に示す予算案を提案する。新型コロナウイルスの蔓延のため, 行事の多くが中止になることが確実であり, 収入・支出ともに前年度から大幅に減少することになるものの, 札幌市さぼ一とほっと助成金 168,000 円が 2020 年度の収入に計上されることから, 全体として約 110,000 円の黒字が見込まれる。

別紙：2020 年度予算 (案)

第 3 号議案：2020 年度役員選任

正会員の中から以下の役員の選任を提案する。

理事 (14 名)：石崎俊一, 川村信人, 君波和雄, 前田仁一郎 (理事長候補), 松田義章, 宮下純夫 (専務理事候補), 中川 充, 岡 孝雄, 岡村 聡, 嵯峨山 積 (副理事長候補), 関根達夫, 高波鐵夫, 山岸宏光, 柳下文夫

監事 (2 名)：在田一則, 加藤孝幸

報 告

1. 会員動向

一般会員 1 名の入会があり, 2020/03/31 現在の会員数は 正会員 19 名, 一般会員 7 名, 院生・学生会員 1 名, 賛助会員 1 名の計 28 名である (2020/04/01 の一般会員 1 名の入会により, 総会当日においては計 29 名)。なお, メールマガジン HRCG Newsletter の会員外購読者は 16 名である。

以上

特定非営利活動法人 北海道総合地質学研究センター
2019年度決算（案）

2019年10月1日～2020年3月31日（単位：円）

収入					
I. 経常収益					
科目	予算	決算	差額	備考	
1. 受取会費					
正会員受取会費	57,000	51,000	6,000	3,000円×17名（未納者2名）	
一般会員受取会費	15,000	17,500	△ 2,500	2,500円×7名	
賛助会員受取会費	5,000	5,000	0	5,000円×1名	
院生・学生会員受取会費	500	1,500	△ 1,000	500円×1名（2020年度分を含む）	
受取会費合計	77,500	75,000	2,500	今年度会費額は正絹会費の半額	
2. 受取寄付金					
受取寄付金	20,000	52,384	△ 32,384	内訳別紙	
無償役務受入評価益	0	1,201,292	△ 1,201,292	内訳別紙（管理費区分相当 852,390円、事業費区分相当 348,902円）	
無償施設・機器等受入評価益	0	1,800	△ 1,800	内訳別紙	
受取寄付金合計	20,000	1,255,476	△ 1,235,476		
3. 受取助成金等					
受取助成金	168,000	0	168,000	札幌市市民まちづくり活動促進助成金、2020年度の入金となった	
受取補助金	0	0	0		
受取助成金等合計	168,000	0	168,000		
4. 事業収益					
総合地質出版事業	12,000	10,500	1,500	総合地質7冊頒布	
研究セミナー開催事業	0	0	0		
公開講座実施事業	138,000	127,500	10,500	第6回～第8回参加費＋資料頒布（500円）、内訳別紙	
アウトリーチ事業	0	20,000	△ 20,000	野外科学株式会社社内講習会へ講師派遣	
事業収益合計	150,000	158,000	△ 8,000		
5. その他収益					
受取利息	2	2	0	預金利息	
雑収益	0	0	0		
その他収益合計	2	2	0		
経常収益合計	415,502	1,488,478	△ 1,072,976		

支出					
II. 経常費用					
科目	予算	決算	差額	備考	

消耗品費	10,000	618	9,382	単四電池代
支払等手数料	500	0	500	
管理雑経費	1,000	△ 11,400	12,400	懇親会不足分 600円, 2019/10/20総会時 補填, 事業費区分の「印刷・製本費」より「法人内流用」として受入 (12,000 円)
管理予備費	5,000	0	5,000	
無償施設・機器等受入評価費用	0	1,800	△ 1,800	事務作業環境提供, 内訳別紙
その他経費合計	187,500	105,765	81,735	
管理費合計	192,500	958,155	△ 765,655	
経常費用合計	358,950	1,705,375	△ 1,346,425	事業費合計+管理費合計
科目	予算	決算	差額	備考
当期経常増減額	56,552	△ 216,897	273,449	経常収益合計-経常費用合計

III. 経常外収益				
科目	予算	決算	差額	備考
経常外収益	0	0	0	
経常外収益合計	0	0	0	

IV. 経常外費用				
科目	予算	決算	差額	備考
経常外費用	0	0	0	
経常外費用合計	0	0	0	

科目	予算	決算	差額	備考
当期経常外増減額	0	0	0	

科目	予算	決算	差額	備考
税引前当期正味財産増減額	56,552	△ 216,897	273,449	
法人税	0	0	0	免除予定
法人道民税均等割	0	0	0	20,000円, 免除予定
法人市民税均等割	0	0	0	50,000円, 免除予定
前期繰越正味財産額	466,885	466,885	0	
次期繰越正味財産額	523,437	249,988	273,449	前期繰越正味財産額 466,885円+当期財産正味増減額 △216,897円 = 249,988円

貸借対照表

2020年(令和2年) 年3月31日現在

科 目		金 額	
I 資産の部			
1.流動資産	249,988		
現金預金			
流動資産合計			
2.固定資産	0		
固定資産合計			249,988
資産合計			
II 負債の部			
1.流動負債	0		
流動負債合計			
2.固定負債	0		
固定負債合計			0
負債合計			
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		466,885	
当期正味財産増減額		-216,897	
正味財産合計			249,988
負債及び正味財産合計			249,988

財産目録

2020年(令和2年) 年3月31日現在

科 目		金 額	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金(現金手許有高)	0		
普通預金	249,988		
流動資産合計		249,988	
2 固定資産			
固定資産合計		0	
資産合計			249,988
II 負債の部			
1 流動負債	0		
流動負債合計		0	
2 固定負債	0		
固定負債合計		0	
負債合計			0
正味財産			249,988

2019年度事業毎決算

「総合地質」刊行事業 決算

収入	金額 (円)	内訳および補足説明
総合地質プリント版頒布	10,500	1,500 円×7冊 (内訳 第1巻×2, 第2巻×2, 第3巻×3)
収入合計	10,500	
支出	金額 (円)	内訳および補足説明
印刷・製本経費	66,000	第1巻・第2巻, 各 20部, 消費税 10% を含む
支出合計	66,000	
収支	△ 55,500	

付記：この事業にかかる役務は管理費区分から支出された

アウトリーチ事業 決算

収入	金額 (円)	内訳および補足説明
野外科学株式会社社内講習会講師派遣	20,000	2019/10/18実施
収入合計	20,000	
支出	金額 (円)	内訳および補足説明
講義準備・資料作製準備必要経費	16,000	
送金手数料	100	
支出合計	16,100	
収支	3,900	

付記：この事業にかかる役務は管理費区分から支出された

公開講座 (第6回～第8回) 開催事業 決算

収入	金額 (円)	内訳および補足説明
講座参加費	127,000	1,000円×82 + 3,000×15
配布資料頒布	500	1部
収入合計	127,500	
支出	金額 (円)	内訳および補足説明
講義準備・資料作製準備必要経費	48,000	
会場費及び会場設備利用費	12,740	
チラシ印刷経費	13,716	
配布資料印刷経費	22,880	
広報資料郵送費	9,150	
短距離交通費	24,445	
各種役務費用	259,161	
傷害保険	1,050	
参加者移動経費	33,000	
支出合計	424,142	
収支	△ 296,642	

付記：各回ごとの決算は別紙

公開講座毎決算

北海道総合地質学研究会第4回公開講座 (2019年6月8日開催) 決算

収入科目	収入 (円)	内訳および補足説明
参加費	33,500	1,000円×33名, 500円×1名
資料販売	400	配付資料を実費頒布, 200円×2冊
計	33,900	
支出科目	支出 (円)	内訳および補足説明
チラシ印刷費	4,786	外部発注 2,000 枚, 送料 216円を含む. 助成対象外 <2019/5/1 以前に支出>
講義資料印刷経費	4,800	A4版, カラー, 表裏印刷, 6枚/1冊, 40 冊作成, 20円×240 枚
会場費並びに会場設備利用費	2,000	石山振興会館会場使用料. 助成対象外 <2019/5/1 以前に支出>
講義準備・資料作成準備必要経費	12,000	講義担当者の講義資料等の準備にかかる諸経費
広報資料郵送費	7,000	札幌圏高等学校 50 校へのチラシ郵送経費, 140円×50通
傷害保険代	1,750	傷害保険, 35名×50円
各種役務費用	97,695	広報活動・会場サポート・講義準備資料作成など, 北海道の最低賃金 835 円/時間で算出
短距離交通費	19,940	各種役務の際に要した交通費 (自動車利用の場合, 12 km/1 人 = 130円で算出)
計	149,971	
収支 (円)	△ 116,071	

北海道総合地質学研究会第5回公開講座 (2019年7月6日・7月13日開催) 決算

収入科目	収入 (円)	内訳および補足説明
参加費 (7/6 分)	35,500	1,000円×35 名, 500円×1 名, 高校生以下 (小学生) 1 名を含む
参加費 (7/13 分)	30,000	1,000円×30 名
資料販売 (7/6 分)	1,000	500円×2 冊, 配付資料を実費頒布
資料販売 (7/13分)	2,500	500円×5 冊, 配付資料を実費頒布
計	69,000	
支出科目	支出 (円)	内訳および補足説明
チラシ印刷費	4,706	外部発注 2,000 枚, 送金手数料 216円を含む
講義資料印刷経費	12,000	A4版, カラー, 表裏印刷, 6枚/1冊, 50 冊作成, 20円×300 枚×2回
会場費並びに会場設備利用費	7,080	かでの 2.7 北海道立道民活動センター (会場使用費 3,100円, 電気使用費 220円, スクリーン使用費 220円)×2回. 助成対象外 <2019/5/1 以前に支出>
講義準備・資料作成準備必要経費	24,000	講義担当者の講義資料等の準備にかかる諸経費
広報資料郵送費	7,380	140円×50通, 380円 (第一種定形外)
各種役務費用	124,415	広報活動・会場サポート・講義準備資料作成など, 北海道の最低賃金 835 円/時間で算出
短距離交通費	7,474	各種役務の際に要した交通費 (自動車利用の場合, 12 km/1 人 = 130円で算出)
計	187,055	
収支 (円)	△ 118,055	

公開講座毎決算

北海道総合地質学研究センター第6回公開講座(2019年10月12日・10月27日開催) 決算

収入科目	収入 (円)	内訳および補足説明
参加費 (10/12 分)	20,000	1,000円×20名
参加費 (10/27 分)	45,000	3,000円×15名
計	65,000	

支出科目	支出 (円)	内訳および補足説明
チラシ印刷費	4,572	外部発注 2,000 枚, 印刷費13,500円+送金手数料 216円を3分割
講義資料印刷経費	12,000	A4版, カラー, 表裏印刷, 6枚/1冊, 50冊作成, 20円×300 枚×2回
会場費並びに会場設備利用費	3,760	かでの 2.7 北海道立道民活動センター, 会場3,100円, 電気220円, スクリーン220円, ワイヤレスマイク 220円 (10/12)
講義準備・資料作成準備必要経費	24,000	12,000円×2
広報資料郵送費	3,050	札幌圏高等学校等へのチラシ郵送経費 (公開講座第6-8 回分) 9,150円 (140 円×60 通, 250円×3通) を3分割
移動経費	33,000	10/27 札幌市内移動のための車チャータ代
傷害保険代	1,050	10/27 21名×50円
各種役務費用	111,930	広報活動・会場サポート・講義準備資料作成など, 北海道の最低賃金 861円/時間で算出
短距離交通費	7,684	各種役務の際に要した交通費 (自動車利用の場合, 12 km/1 人 = 130円で算出)
計	201,046	

11

収支 (円)	△ 136,046
--------	-----------

北海道総合地質学研究センター第7回公開講座(2019年11月2日開催) 決算

収入科目	収入 (円)	内訳および補足説明
参加費	21,000	1,000円 × 21名
計	21,000	

支出科目	支出 (円)	内訳および補足説明
チラシ印刷費	4,572	外部発注 2,000 枚, 印刷費13,500円+送金手数料 216円を3分割
講義資料印刷費	5,880	A4判, 9枚, 裏表, カラー印刷, 40冊 (360枚×15円): 災害HPリスト一覧
会場費及び会場設備利用費	4,840	かでの 2.7 北海道立道民活動センター, 会場使用費 4,400円, 電気使用費 220円, スクリーン使用費 220円
講義準備・資料作成準備必要経費	12,000	講義担当者の講義資料等の準備にかかる諸経費
広報資料郵送費	3,050	札幌圏高等学校等へのチラシ郵送経費 (公開講座第6-8 回分) 9,150円 (140 円×60 通, 250円×3通) を3分割
各種役務費用	79,212	広報活動・会場サポート・講義準備資料作成など, 北海道の最低賃金 861 円/時間で算出
短距離交通費	9,804	各種役務の際に要した交通費 (自動車利用の場合, 12 km/1 人 = 130円で算出)
計	119,358	

収支 (円)	△ 98,358
--------	----------

公開講座毎決算

北海道総合地質学研究会センター第8回公開講座 (2019年12月7日開催) 決算

収入科目	収入 (円)	内訳・補足説明
参加費収入	41,000	1,000円 × 41名
講演資料販売	500	500円 × 1冊
計	41,500	
支出科目	支出 (円)	内訳および補足説明
チラシ印刷費	4,572	外部発注 2,000 枚, 印刷費13,500円+送金手数料 216円を3分割
会場費及び会場設備利用費	4,140	かでの 2.7 北海道立道民活動センター, 会場使用費 3,700円, 電気使用費 220円, スクリーン使用費 220円
講義準備・資料作成準備必要経費	12,000	講義担当者の講義資料等の準備にかかる諸経費
広報資料郵送費	3,050	札幌圏高等学校等へのチラシ郵送経費 (公開講座第6-8 回分) 9,150円 (140 円×60 通, 250円×3通) を3分割
資料印刷費	5,000	A4判, 10枚, 裏表カラー印刷, 50冊 (500枚×10円)
各種役務費用	68,019	広報活動・会場サポート・講義準備資料作成など, 北海道の最低賃金 861 円/時間で算出
短距離交通費	6,957	各種役務の際に要した交通費 (自動車利用の場合, 12 km/1 ℓ = 130円で算出)
計	103,738	
収支 (円)	△ 62,238	

公開講座収支一覧

	収入	支出	収支
第4回公開講座	33,900	149,971	△ 116,071
第5回公開講座	69,000	187,055	△ 118,055
第6回公開講座	65,000	201,046	△ 136,046
第7回公開講座	21,000	119,358	△ 98,358
第8回公開講座	41,500	103,738	△ 62,238
合計	230,400	761,168	△ 530,768
「さぼーとほっと助成」収支決算書の支出合計額は 5/1 以前に支出した助成対象外の合計金額 13,866 円を除いた 747,302円 「さぼーとほっと助成」に係る収支は 516,902 円の支出超過			
第4回-第8回参加者数合計	197	内訳：34 + 66 (36+ 30) + 35 (20 + 15) +21 + 41	
各種役務費用一覧			
	役務費用	交通費	左合計
第4回公開講座	97,695	19,940	117,635
第5回公開講座	124,415	7,474	131,889
第6回公開講座	111,930	7,684	119,614
第7回公開講座	79,212	9,804	89,016
第8回公開講座	68,019	6,957	74,976
合計	481,271	51,859	533,130

2019年度 寄付・無償役務等提供者一覧

寄付金	
氏名	金額 (円)
在田一則	1,447
前田仁一郎	9,000
松田義章	1,000
宮坂省吾	4,800
宮下純夫	4,500
森藤 勉	1,837
岡村 聡	5,200
嵯峨山 積	10,000
関根達夫	3,600
高波鐵夫	2,000
山岸宏光	9,000
計	52,384

管理費区分 無償役務			
氏名	金額 (円)	備考 (算定時間)	
在田一則	8,610	10	
加藤孝幸	8,610	10	
前田仁一郎	430,500	500	
宮下純夫	86,100	100	
岡村 聡	25,830	30	
嵯峨山 積	215,250	250	
関根達夫	25,830	30	
高波鐵夫	25,830	30	
柳下文夫	25,830	30	
計	852,390	990	

管理費区分 事務作業環境無償提供		
氏名	金額 (円)	備考
前田仁一郎	1,200	200円 × 6月
嵯峨山 積	600	100円 × 6月
計	1,800	

管理費区分 合計金額 (円)	854,190
----------------	---------

受取寄付金内訳	
受取寄付金	52,384
無償役務受入評価益	1,201,292
無償施設・機器等受入評価益	1,800
計	1,255,476

事業費区分 公開講座 無償役務	
氏名	金額 (円)
在田一則	2,497
前田仁一郎	85,368
松田義章	2,459
宮坂省吾	24,967
宮下純夫	28,562
森藤 勉	3,026
中川 充	3,121
岡村 聡	20,127
嵯峨山 積	95,715
関根達夫	45,493
高波鐵夫	16,116
柳下文夫	21,451
計	348,902

監事監査報告

2020年4月12日

特定非営利活動法人
北海道総合地質学研究センター
理事長 前田 仁一郎 殿

特定非営利活動法人
北海道総合地質学研究センター

監事 在田 一則



監事 加藤 孝幸



私たちは、2019年10月1日から2020年3月31日までの会計及び業務の監査を行い、次の通り報告します。

1 監査の概要

(1) 会計監査について、帳簿ならびに関係書類の閲覧等必要と思われる監査手続きを用いて計算書類の正確性を検討した。

(2) 業務監査について、理事長及び副理事長から業務の内容を聴取し、必要と思われる監査手続きを用いて、業務執行の妥当性を検討した。

2 監査の意見

(1) 貸借対照表及び財産目録は、会計帳簿の記載金額と一致し、法人の収支状況及び財産状態を正しく反映しているものと認める。

(2) 事業報告の内容は真実であると認める。

(3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する事実はないと認める。

特定非営利活動法人 北海道総合地質学研究センター
2020年度 予算

2020年4月1日～2021年3月31日（単位：円）

収入

I. 経常収益					
科目	予算	前年度実績	差額	備考	
1. 受取会費					
正会員受取会費	120,000	51,000	69,000	6,000円×19名+3,000円×2名（前年度未納者分2を含む）	
一般会員受取会費	40,000	17,500	22,500	5,000円×8名	
賛助会員受取会費	10,000	5,000	5,000	10,000円×1名	
院生・学生会員受取会費	0	1,500	△1,500	1,000円×0名（前年度に納入済）	
受取会費合計	170,000	75,000	95,000	前年度会費額は例年の半額（それぞれ3,000円、2,500円、5,000円、500円）	
2. 受取寄付金					
受取寄付金	30,000	52,384	△22,384		
無償役務受入評価益	0	1,201,292	△1,201,292	事前評価せず	
無償施設・機器等受入評価益	0	1,800	△1,800	事前評価せず	
受取寄付金合計	30,000	1,255,476	△1,225,476		
3. 受取助成金等					
受取助成金	168,000	0	168,000	2019年度札幌市さぽーとぽっと基金助成金	
受取補助金	0	0	0		
受取助成金等合計	168,000	0	168,000		
4. 事業収益					
総合地質10冊頒布	15,000	10,500	4,500	総合地質10冊頒布	
研究セミナー開催事業	0	0	0		
公開講座実施事業	0	127,500	△127,500	公開講座事業中止のため計上せず	
公開講座資料販売	0	0	0	公開講座資料販売の前年度実績（500円）は公開講座実施事業（127,500円）内に含まれている。今年度は公開講座事業中止のため計上せず	
アウトリーチ事業	0	20,000	150,580		
事業収益合計	15,000	158,000	△143,000		
5. その他収益					
受取利息	2	2	0	預金利息	
雑収益	998	0	998		
その他収益合計	1,000	2	998		
経常収益合計	384,000	1,488,478	△1,104,478		

支出

II. 経常費用					
科目	予算	前年度実績	差額	備考	
1. 事業費					
(1) 人件費					
給与	0	0	0	計上せず	
謝金	0	0	0		
役務報酬費	0	132,369	△132,369	事前評価せず	
無償役務評価費用	0	348,902	△348,902	事前評価せず	
人件費合計	0	481,271	△481,271		
(2) その他経費					
講義準備・資料作成準備必要経費	0	64,000	118,000	公開講座事業中止のため計上せず	
会場費	0	25,700	△25,700	研究セミナー会場費など、中止を決めた公開講座使用の会場を前年度支出で予約済なので、計上せず	
旅費・交通費	0	51,859	△51,859	公開講座サポーター要員の移動経費など、公開講座事業中止のため計上せず	
広報・宣伝費	0	0	0	公開講座チラシ印刷費（2019年度実施公開講座第6～8回分は2018年度決算の印刷・製本費の中で137,916円）など、中止のため計上せず	
通信費	1,000	740	260	郵送料	
印刷・製本費	33,000	88,880	△55,880	総合地質 vol.4）印刷、なお、前年度決算額（88,880円）に含まれていた公開講座配布資料印刷用インク・トナー経費は消耗品費費目に移動	
事務用品費	0	0	0		
消耗品費	0	0	0	用紙代、プリンターインク・トナー代など（前年度までは印刷・製本費扱、なお、このインク・トナー代は主に公開講座配布資料の作成に充てられるもので、今年度は計上せず）	
支払手数料	200	100	100	送金手数料	
事業雑経費	0	34,270	△34,270		

事業予備費		5,000	400	4,600	会員の研究支援事業経費（前年度決算額 400円）を含む ○ 事前評価せず
無償施設・機器等受入評価費用		0	0		
その他経費合計		39,200	265,949	△ 226,749	
事業費合計		39,200	747,220	△ 708,020	
2. 管理費					
(1) 人件費					
役員報酬		0	0	0	計上せず
給与		0	0	0	計上せず
謝金		5,000	0	5,000	事務作業補助、会計作業補助、ホーム買更新作業補助など
役員報酬費		0	0	0	○ 今年度新設費目、事前評価せず
無償役員評価費用		0	852,390	△ 852,390	事前評価せず
人件費合計		5,000	852,390	△ 847,390	
(2) その他経費					
事務所費		120,000	60,000	60,000	エルプラサブス使用料（10,000円×12ヶ月、4月～翌年3月分）
会議・会議費		5,000	52,000	△ 200	総会会場費など
旅費・交通費		30,000	10,410	19,590	幹事会片道交通費（2,600円×10回）など
広報・宣伝費		5,000	0	5,000	名刺作成など
通信費		50,000	26,306	23,694	サーバーレンタル更新・ドメイン保護経費（計14,278円）、郵送料、携帯電話代（約1,700円/月）など
印刷・製本費		5,000	10,950	△ 5,950	前年度決算（10,950円）にはプリンタ用インク・トナー経費が含まれていたが、2020年度では消耗品費費目に移動
事務用品費		5,000	1,881	3,119	封筒、領収書、クリアファイル、名刺用紙など
消耗品費		5,000	618	4,382	用紙代、プリンターインク・トナー代、電池など、なお、前年度においては用紙・インクなどの経費は印刷・製本費の中に含まれていたが、今年度、消耗品費目に移動
支払手数料		500	0	500	
管理雑経費		1,000	△ 11,400	12,400	前年度は「法人内流入入」を含むため、支出金額は負となっている
管理予備費		1,000	0	1,000	
管理事務作業経費提供		3,600	0	3,600	今年度新設費目、3,600円（理事長：200円×12ヶ月、副理事長：100円×12ヶ月）、前年度は無償施設・機器等受入評価費用として、
無償施設・機器等受入評価費用		0	1,800	△ 1,800	事前評価せず
その他経費合計		231,100	105,765	125,335	
管理費合計		236,100	958,155	△ 722,055	
経常費用合計		275,300	1,705,375	△ 1,430,075	事業費合計 + 管理費合計
科目		予算	前年度実績	差額	備考
当期経常増減額		108,700	△ 216,897	325,597	経常収益合計 - 経常費用合計
III. 経常外収益					
科目		予算	前年度実績	差額	備考
経常外収益		0	0	0	
経常外収益合計		0	0	0	
IV. 経常外費用					
科目		予算	前年度実績	差額	備考
経常外費用		0	0	0	
経常外費用合計		0	0	0	
科目		予算	前年度実績	差額	備考
当期経常外増減額		0	0	0	
科目		予算	前年度実績	差額	備考
株引前当期正味財産増減額		108,700	△ 216,897	325,597	
法人税		0	0	0	課税なしを想定
法人道民税均等割		0	0	0	免除（20,000円）を想定
法人市民税均等割		0	0	0	免除（50,000円）を想定
前期繰越正味財産額		249,988	468,885	△ 216,897	
次期繰越正味財産額		358,688	249,988	108,700	

資料

資料 1：北海道総合地質学研究センター設立目的および定款に定める活動・事業

特定非営利活動法人北海道総合地質学研究センターの設立目的は、定款第 3 条において「地質学に関する研究・教育・実務などの高度な創造的活動を行なおうとする者のために必要な環境を用意し、その支援を行うとともに成果の普及活動を行い、それによって純粋地質学から自然防災を含む応用地質学など幅広い範囲におよぶ「総合地質学」の研究の推進、およびそれに基づく社会的貢献、特に一般市民の地質学に関する基礎知識の増進に貢献すること」と定められ、定款第 4 条において特定非営利活動として以下の 4 活動を行うとしている。

(1) 学術、文化、芸術又はスポーツの振興を図る活動、(2) 科学技術の振興を図る活動、(3) 社会教育の推進を図る活動、(4) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

また、定款第 5 条で定められている事業は以下の 9 事業である。

① 会員の研究を支援する活動、② 会員の研究成果の発表・出版を支援する活動、③ 会員の地質学に関する専門知識の普及活動、④ 本法人としての研究・調査活動、⑤ 本法人の研究・調査活動成果の発表・出版活動、⑥ 地質学に関する交流事業、⑦ 地質に関する書籍・物品・情報などの斡旋・販売事業、⑧ 地質に関するコンサルタント事業、⑨ その他目的を達成するために必要な事業

資料 2：2019 年度 (2019 年 10 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日) の事業・活動記録

2019/10/10：幹事会

2019/10/12：第 6 回公開講座 (その 1)

2019/10/13：監査 (監事 2 名と正副理事長が出席)

2019/10/18：野外科学社内講習会講演

2019/10/20：第 13 回研究セミナー

2019/10/20：通常総会

2019/10/20：懇親会

2019/10/27：第 6 回公開講座 (その 2)

2019/11/02：第 7 回公開講座

2019/11/10：総合地質プリント版納本 (-12/14)：国会図書館、産総研、道地質研、道立図書館、北海道博物館

2019/11/10：役員公式名刺作成 (その他にも随時)

2019/11/14：幹事会

2019/11/22：札幌市へ事業報告 (+ 役員変更届)

2019/11/22：札幌市へ定款変更届 (2020/01/31 付認証)

2019/12/07：第 8 回公開講座

2019/12/12：幹事会

2019/12/14：公開講座の 2020 年度前期道民カレッジ連携指定申請のための作業開始

2019/12/25：入会承認 (一般会員 1 名)

2020/01/05：公開講座決算などの報告 (道教委道民カレッジ事務局、札幌市、札幌市教委、地質調査業協会など)

2020/01/13：札幌市さぼーとほっと 2019 年度助成金請求作業 (2020/3/26 確定、3/30 最終書類提出、助成額 168,000 円)

2020/01/17：正副理事長・監事打ち合わせ (札幌市さぼーとほっと 2019 年度助成金における短距離交通費・役務有償化に関わること)

2020/01/22：札幌市さぼーとほっと 2019 年度助成金における短距離交通費・役務有償化について役員に説明

2020/01/24：第 14 回研究セミナー
2020/01/24：懇親会
2020/02/05：札幌市さぽーとほっと 2020 年度助成金説明会参加
2020/02/06：幹事会 (3 月以降、定例の幹事会を開催できず)
2020/02/20：札幌市事務ブース使用申請 (3/27 承認)
2020/02/20：公開講座 (第 4・5・6・7・8 回) アンケート結果まとめ
2020/02/29：第 2 回論文輪読会中止 (新型コロナウイルス感染蔓延のため)
2020/03/02：イオンパンプ配置場所 2020 前期分利用申込 (後日、藻岩、発寒、手稲山口の利用承認)
2020/03/02：公開講座開催予定確定 (第 9 回: 7/18・7/25, 第 10 回: 8/29, 第 11 回: 10/31, 第 12 回: 11/28)
2020/03/05：札幌市さぽーとほっと 2020 年度助成金前期申請 (書類を郵送するも締切期日に間に合わず不受理)
2020/03/18：南富良野町砂金採取関連問い合わせ (3/31 最終返答)
2020/03/31：イオン 3 店舗に公開講座開催 (第 9 回: 7/18・7/25, 第 10 回: 8/29, 第 11 回: 10/31, 第 12 回) 案内を配置

-----<これ以降は 2020 年度、備忘録的に収録>-----

2020/04/01：入会承認 (一般会員 1 名)
2020/04/09：通常総会 (4/26 開催予定) の延期を通知 (新型コロナウイルス感染蔓延のため)
2020/04/12：監査 (監事 2 名と正副理事長が出席)
2020/04/17：法人住民税 (北海道、札幌市) 申告 (2020/5/15 付で札幌市から法人市民税均等割 50,000 円の全額免除通知)
2020/04/17：2019 年度札幌市市民まちづくり活動促進基金から助成金 (さぽーとほっと助成金) 168,000 円入金
2020/04/22：公開講座 (第 9 回・第 10 回) の後援申請 (札幌市・札幌市教育委員会・一般社団法人北海道地質調査業協会、後日承認)
2020/04/30：幹事会内でオンラインミーティングテストを開始 (この後、5/6、5/12 にも行い、幹事会内でのオンラインミーティングが可能なことを確認)
2020/05/19：正副理事長と専務理事の会議をオンラインで開催
2020/05/22：幹事会をオンラインで開催。2020 年度の公開講座事業の中止を決定
2020/05/31：2020 年通常総会の開催 (新型コロナウイルス感染蔓延のため、最小限の実出席者によって開催)

資料 3：公開講座 (第 4 回から第 8 回) 参加者アンケート結果 (別紙)

資料 4：公開講座実施の際の役務と近距離交通費の取扱 (別紙)

北海道総合地質学研究センター公開講座(第4回から第8回)参加者アンケート結果

	第4回	第5回 1日目	第5回 2日目	第6回 1日目	第6回 2日目	第7回	第8回	全体	%
実施年月日	2019/6/9	2019/7/6	2019/7/13	2019/10/12	2019/10/27	201/11/2	2019/12/7		
参加者	34	36	30	20	15	21	41	197	
回答者	26	25	17	16	14	19	30	147	
回答率%	76.5	69.4	56.7	80.0	93.3	90.5	73.2	74.6	
1. 年齢	10代	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	20代	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	30代	0	2	0	0	0	2	4	2.7
	40代	4	2	2	1	3	2	15	10.2
	50代	5	1	1	2	1	3	15	10.2
	60代	8	9	5	5	3	11	47	32.0
	70代	8	7	6	6	10	11	52	35.4
	80代	1	4	3	2	2	1	14	9.5
	無回答	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	計	26	25	17	16	14	30	147	100.0
2. 公開講座を知った場所・きっかけ	道民カレッジ web	1	1	2	1	1	2	14	9.5
	道民カレッジ冊子	1	4	0	3	3	1	17	11.6
	新聞記事	6	5	1	4	1	5	22	15.0
	当研究センター web	7	4	3	3	4	9	32	21.8
	当研究センター チラシ	9	4	6	4	5	4	36	24.5
	知人・友人から	1	5	4	0	0	6	17	11.6
	その他	1	2	1	0	0	0	4	2.7
	無回答	0	0	0	1	0	3	5	3.4
	計	26	25	17	16	14	30	147	100.0
	記入欄：チラシ・案内を受け取った場所など	白石区役所, 南区役所, 南区民センター, 高校(チラシ直送, 2回答), 石山ボスト館 (2回答), 以前の講座での案内	新琴似図書館, かでる2・7, 以前の講座での案内	以前の講座での案内 (2回答), 地質学会支部, 高校職場 (チラシ直送), かでる2・7, エルプザ	南区役所 (2回答), 職場 (高校宛チラシ直送), 当研究センターのメールマガジン, 以前の講座での案内	南区役所, 職場 (高校宛チラシ直送), 以前の講座での案内	厚別区役所, 清田区役所, 以前の講座での案内	西岡図書館 (2回答), 北大博物館, 山の手博物館, 以前の講座での案内 (3回答)	

	第4回	第5回 1日目	第5回 2日目	第6回 1日目	第6回 2日目	第7回	第8回	全体	%
3. 講義の長さ	短かった	2	0	1	1	0	1	7	4.8
	少し短かった	4	3	2	1	3	3	20	13.6
	ちょうど良かった	19	11	12	11	13	23	101	68.7
	少し長かった	0	0	0	0	1	0	3	2.0
	長かった	0	0	0	0	0	1	2	1.4
	無回答	1	3	1	1	2	2	14	9.5
	計	26	17	16	14	19	30	147	100.0
	大変わかりやすかった	6	4	4	5	0	13	34	23.1
	わかりやすかった	16	8	8	9	9	11	71	48.3
	ふつうだった	4	2	3	0	6	2	25	17.0
4. 講義の内容	あまりわからなかった	0	1	1	0	1	0	3	2.0
	全くわからなかった	0	1	0	0	0	0	1	0.7
	どちらともいえない	0	1	0	1	1	0	3	2.0
	その他	0	1	0	0	0	1	2	1.4
	無回答	0	1	1	0	2	3	8	5.4
	計	26	17	16	14	19	30	147	100.0
	記入欄						難しくもあり…		
	見やすかった	15	7	11	6	25	76	57.1	
	少し見やすかった	8	1	3	5	3	23	17.3	
	少し見づらかった	3	9	2	5	0	25	18.8	
5. スライドの見やすさ	見づらかった	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	無回答	0	0	0	0	3	2	9	6.8
	計	26	17	16	19	30	133	100.0	
	記入欄					文字が多すぎ	葉の花や紅葉の写真きれいでした		
	大変わかりやすかった	10					10	38.5	
	わかりやすかった	12					12	46.2	
	ふつうだった	3					3	11.5	
	あまりわからなかった	0					0	0.0	
	全くわからなかった	0					0	0.0	
6. 野外見学会	どちらともいえない	0					0	0.0	
	無回答	1					1	3.8	
	計	26					26	100.0	
	記入欄								
	図面など少し見づらかった	25	途中はわからなかったが、結論は面白かった	16		19	30	133	100.0
	10						10	38.5	
	12						12	46.2	
	3						3	11.5	
	0						0	0.0	
	0						0	0.0	

		第4回	第5回 1日目	第5回 2日目	第6回 1日目	第6回 2日目	第7回	第8回	全体	%
7. 今後の講座のテーマ として関心のあるもの (複数回答) (その他記入は別紙)	地球の起源や進化	2	9	4	7	3	6	10	41	11.1
	地質変動	12	14	8	13	8	14	15	84	22.8
	岩石や鉱物	7	6	4	7	5	2	7	38	10.3
	地球環境	1	9	3	9	1	11	18	52	14.1
	自然災害	6	8	4	13	8	15	21	75	20.3
	野外での観察会	20	10	5	8	8	6	10	67	18.2
	その他	2	1	2	1	0	2	4	12	3.3
	計	50	57	30	58	33	56	85	369	100.0
8. 全体的な改善点や感想、意見など何でも (別紙)										

7. 今後の講座のテーマとして関心のあるもの

第4回	●考古学との関連●千歳, 恵庭, 河川の地域地質
第5回 1日目	●身近な話題がいい
第5回 2日目	●日本人の起源と縄文文化, アイヌとの関係●札幌周辺や石狩・後志の地形と地質の関係●地球科学全般と人間の関係
第6回 1日目	●昭和の大洪水で石狩川・豊平川の大雨によって死者, 負傷者, 家屋全半壊, 床上浸水, 床下浸水, 河川被害, 道路被害が過去最大の被害があったの自分も菊水に住んでいたので大変おそろしかったことを思い出しました。川があふれて堤防を越えてくるのではないかと思います。兄弟妹でふえることを思い出しました●近現代史 (含先住民), 地球に関して, その他
第6回 2日目	●フィールドワークに参加したい
第7回	●防災と被災後の土地や家屋のケアと対策●避難場所と被災者の生活の工夫●札幌市全体の地質を知りたい●河川の状態, 札幌市全体の危険度とか
第8回	●身近な地殻変動●地球環境, 太陽の放射量の変化が大陸の氷床を発達させ, 負のフィードバックが作用し, 人類の活動が氷河の到来を遅らせていると思われる●身近な自然災害, 地質学者はどの様に研究しているか●鉾山史●プレートテクトニクス●地質と植物・植生の関係. これによりわかる災害発生形態の特徴と防災の考え方●「プレートテクトニクスの拒否と受容」の様な人間臭いドラマはどうか? ●島村英紀氏の逮捕事件はどうか? ●高校で地質が絶滅した現状とその原因と対策はどうか? ●火山学者が手薄で防災上非常に危うい●地質学者はどのように研究しているのか (50代) ●身近な地質の話 (自然災害・北海道の地質変動) (30代) ●ミランコビッチ周期による地球が受ける太陽の放射量の変化や深層海流を世界中に再び戻ってきて再び大陸氷床が発達し始めて負のフィードバックが作用すると思われ, 人類の活動が氷河期の到来を遅らせていると思われ

8. 全体的な改善点や感想, 意見など何でも

第4回	●有難うございました (5回答) ●多くの疑問が氷解した ●声が小さくマイクを使用してもらいたかった. 札幌軟石を専門的に知り, 面白かった●資料をWebで公開してほしい. 400万年, 4万年という時間を目の前にして, 人生の時間軸が少し変わった●札幌市内のいろいろな地域で講演活動をしてもらいたい. 足を運びやすい施設で行えば, これまで関心が無かった人々も触れることが出来る●道東でプレート境界が観察できる所を教えてください (北見在住) ●地元に住んでいて, 興味深く聞いた. ジオラマもわかりやすかった●シームレス地質図の凡例を示してほしい●室内講座では, もう少し時間をかけ詳しい説明をしてほしい●
-----	---

第5回 1日目	●道民カレッジなので説明はもう少し丁寧に●今回は大変難しかった●学術的言葉が多かった●要点や解釈を説明してほしい●第1回目の講座は不要ではないか●参考文献が古すぎる●資料は1ページ2分割の方が見やすい●子供の話し声で集中できなかった●(実際に)顕微鏡で珪藻を観察できればよい●わかりやすい言葉や切り口で説明を
第5回 2日目	●もう少し具体的なものであれば分かりやすかった●今回は声が聞こえて良かった●専門用語が多い●資料の出典先を詳しく書いてもらいたい●専門用語の理解に誤りが多い(特に年代)●紅葉山砂丘の北東側の説明がなかった。新琴似はSNK, SKN? ●珪藻化石と地層の関係をもう少し知りたかった●データに基づいた話で、面白かった●塩分指数と塩分濃度が1:1でないのではという意見に同感●石狩平野について、もう少し時間をかけて聞きたかった(概論部分が多すぎる)●前でのデジカメ撮影は後ろでお願いしたい●スライドの映る位置が低いので、見えない部分がある
第6回 1日目	●特にありません。これからも継続して公開講座を開いてくださるようお願いいたします●興味深い内容でした。有り難うございました。1981年の洪水を思い出し申込みさせていただきました●大変勉強になりました●観察会でも引き続きお世話になります●よろしくお願いします●回数を増やして欲しいです●豊平川に関心があり、いい話を聞きました。有り難うございました●洪水の予報について自分なりに勉強してみたいと思います●素人ですがわかりやすく話していただきました。また来ます。野外観察も行きますのでよろしく願います
第6回 2日目	●楽しかったし勉強になりました。有り難うございました●座学とセットで大変良いと思います。今日使用した大写真の説明資料も配付して頂けると、もっと良いと思います●長時間わかりやすいご説明ありがとうございます●大変参考になりました。ありがとうございます●詳しく説明いただきありがとうございます●今後ともこの企画をお願いします●実際に見学が出来て大変楽しく学ぶことができました。有り難うございました。豊平川が急流であることがよくわかりました。治水の難しさもわかりました●少し説明が聞きづらいことがあった(拡声器の使い方)●雁来まで聞きたかったです。豊平川についてまだまだ話題が沢山あるとのこと。それを聞きたいです●時間がなく最後の講座まで進むことができなかったのは少し残念●感想:19世紀初めの河川争奪の跡の現地を目の当たりにできて感激しました●真駒内で時間を使い過ぎ。時間内で質問を受け付けた方が良いと思います●初参加ですので、又機会がありましたら参加したいと思いました
第7回	●札幌市全体の話をもっと少し聞きたかった●札幌市全体を話す様にすると良かったと思う●講演中に資料を回すのは、うるさいし、どうかと思う●資料の字が小さく、読めない所が多くある●昭和56年災害とハザードマップを見て、被害が大きかったことを知った●ハザードマップのレビュー? ハザードマップから何が分かるのか? ●災害発生時にはどの資料を参考にすると多くの情報をとれるのか? ●詳細な資料でよくわかった。資料2-4「北部低地の地質断面」で、地域ごとの図があるのとわかりやすかったと思う。地質と標高、河川の関係などで災害が起きやすいことを理解した●各地域(町内会など)での学習会があれば防災意識が高まると思う
第8回	●地球温暖化が進んでいるのか、氷河期が到来するのか、分からない? ●「ICPP」が何回か出てきたが、「IPCC」の間違いでは? ●わかりやすい講義でした。理解しやすかったです●予想したより面白かったです。さすが宮下さん●お話わかりやすかったです。興味湧いてきました●今回の内容から言えば時間が全然足りなかった。3回くらいに分けて行こう内容でした●楽しく興味深い話で良かったです。数回に分けて詳しく聞きたいです●興味深いお話でした。第二弾をお願いします●未来のために過去を知ることは大事だと思いました。身近な話で良かったです。地球を考える上で、理論を理解することにより実感が持てたと思う。人類が温暖化に影響を与えているデータは驚愕でした。初心者には少し難しめ(だった)かもしれませんが

公開講座実施の際の役務と近距離交通費の取扱

1. 過不足の無いように適正にカウント・申告する <公金を扱う法人であることを意識すること>
2. 役務時間から役務額を算出するには、北海道の最低賃金 (2019/10/3 に 835 円から 861 円に改正) を用いる。
3. 総括責任者: 講座当日の会場責任者役務を含まない。事前の参加予約受付、事後のまとめ、報告・決算など、作業の評価は 1 回分 <1 日分> の講座につき 20 時間のカウント。必要な場合を除き、交通費はカウントしない。
4. 会場責任者は参加者数や収入額、単位認定者数などの情報を総括責任者に伝えることが求められる。会場役務は 4 時間にカウントし (通常の座学の場合、野外観察会などの場合には実態に合わせて算定)、実際の交通費を申告する。
5. 受付などの会場サポート役務は 4 時間にカウントし (通常の座学の場合、野外観察会などの場合には実態に合わせて算定)、実際の交通費を申告する。
6. 講師の講義準備・資料作成準備必要経費 (講義担当者の講義資料等の準備にかかる諸経費 = 12,000 円支払) を超える分として 1 回につき 20 時間をカウント。特に必要な場合を除き、交通費はカウントしない (講義準備・資料作成準備必要経費に含まれるので)。
7. 講師のチラシデザイン作成作業および講義配付資料ファイル作成作業の経費は講義準備・資料作成準備必要経費 (= 12,000 円支払) に含まれているのでカウントしない。
8. チラシ作成時の幹事等のアドバイスは、必要なら管理費区分役務にカウントし、公開講座事業費区分にはカウントしない。
9. 印刷事業者からのチラシ受取から会員による配布開始までの作業。標準的役務時間として 3 時間カウント。交通費は、特に必要な場合を除き、通常はカウントしない。
- 10-1. チラシ配布作業。従事者が実際の役務時間を申告し、カウントする。
- 10-2. チラシ配布作業。交通費は公共交通機関の場合には実際の額を申告。自家用車使用の場合は財務担当が別途定める。(現時点の基準は 12 km/1ℓ = 130 円)
11. 事前の打ち合わせや下見作業。実際の役務時間と交通費を申告。
- 12-1. 講座配付資料や受付用のプリント作成作業は実際の役務時間と交通費を申告。
- 12-2. 講座配付資料や受付用のプリント作成作業は、原則として法人所有のプリンターを使用するが、法人所有以外のプリンター使用の場合には用紙については管理費区分から、トナー類については公開講座事業区分から支出する。なおこの経費区分は法人所有のプリンターを使用する場合も同様である。
13. 役務時間の算定において、0.5 時間以上は 1 時間に切り上げ、0.5 時間未満は 0 時間に切り下げる。
